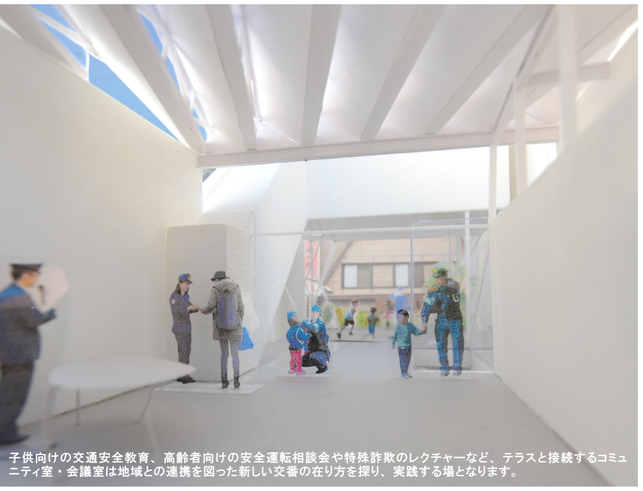
様式 12

明るい気配をもたらす交番

1 階客溜りは誰でも入りやすいようコンパクトに道に面して配置され、L 字カウンター端部の窓口が街を見守ります。持ち上げられた 3 階の仮眠室との間からは、光が注ぎ込む 2 階テラスと、奥のコミュニティ室・会議室が見えます。



子供向けの交通安全教育、高齢者向けの安全運転相談会や特殊詐欺のレクチャーなど、テラスと接続するコミュニティ室・会議室は地域との連携を図った新しい交番の在り方を探り、実践する場となります。

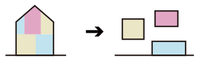
広島県警音楽隊の演奏に使うなど、テラスは本通りの直近という立地を生かした広報活動の場となります。

夜には街のヒューマンスケールの常夜灯となる窓口。トップライトから漏れる光が軒天を照らします。

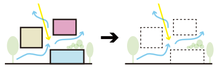
特定の人のためでない、強い公共性を持つ交番は、千差万別である人々の好みや警察への思いに依拠しない建築が求められると考えます。

それを、「普遍的な印象の良さ」と置き換えます。
建築の外見、中身を超えて、人々が本能的に感じる印象の良い場所。それは明るい気配や、良好な風通しという単純に察知できる気持ちよさそうな場所ではないでしょうか。三方壁に囲われた間口の狭い敷地を、骨格から変えていきます。

交番は、小ぶりな建築の中に明確な要望のある多くの機能を持っています。それらを建築の外形を決めて陣取り的に配置するのではなく、それぞれの機能の要望に従い積み上げていくことで多くの隙間を持った建築を形成します。



ボトムアップ的に積み上げられた全体性のない建築の、それぞれの隙間からこぼれる光や風が、建築の形の印象以上に、人々がこの交番に親しむきっかけとなっていく、明るく好感の持てる場所として、地域との距離を近づけます。

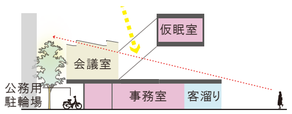


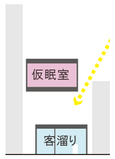
敷地の奥を明るくする立体構成とセキュリティへの配慮（テーマ1、2）

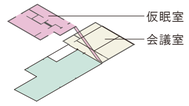
街と密に関わる客溜りとカウンターは道路に接するように前に出し、公務用駐輪場を敷地奥に配置します。また、来所者が出入りする会議室に対して、24 時間眠らない交番の過酷な勤務において効率的な休息を得られるよう仮眠室を 3 階に持ち上げます。

駐輪場による奥の空白、北側の隣地建物から隙間をあけた 3 階の配置によって、道路から見たときに建物越しに敷地の奥や、2 階レベルが明るく浮かび上がります。

多くの外部空間を持つ立体的な構成は、各階に自然光や風通しの良さをもたらす一方、吹き抜けは設けない、投げ込み等不測の事態は抑止する構成です。2・3 階に会議室と仮眠室を分けることは、セキュリティ区分も明確化します。





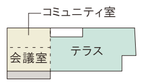


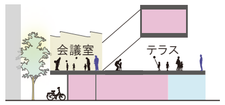
テラスと一体化するコミュニティ・会議室（テーマ1、2）

一般来所者が利用するコミュニティ室を会議室とまとめて 2 階に計画します。使用頻度が少なく、普段活用されないスペースとなりがちな会議室を、面積の小さなコミュニティ室と一体化できる計画とすることで、相互補完的に利用を促します。

コミュニティ室・会議室は道からの視認性が高い 2 階のテラスと接続します。明るい 2 階全体を地域と共に使い、今まで以上に地域との連携を図った交番の在り方、使い方を可能とします。

テラスは、中四国を代表する商業地区の中心軸である本通商店街に隣接する立地を生かし、広島県警の街中の広報拠点とすることができます。警察の活動を社会に発信する恰好のステージです。



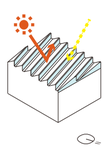


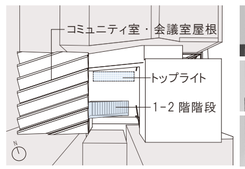
警察官にとっても来訪者にとっても心地よい明るい内部空間（テーマ1）

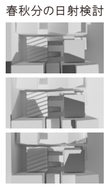
コミュニティ室・会議室は、直射日光を避けつつ拡散光による明るい内部空間を実現するため、北向きの連続的なハイサイドライトの屋根とします。ハイサイドライトからの光は、ルーバー状の屋根の裏面を照らし、道からも明るく浮かび上がります。

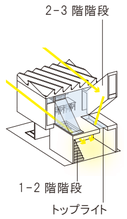
三方が建物に囲まれ、暗くなりがちな 1 階の奥にも自然光を取り込めるよう、事務室には 2 階テラスを利用したトップライトを設けます。トップライトは直射光を拡散し、断熱性が高く、上部テラスの利用の妨げにならない歩行用ガラスブロックとします。

また、1-2 階階段は 1 階に光を落とすためにガラス張りとし、2-3 階階段は閉じた壁面とすることで、トップライトに反射光を落とすリフレクターとして利用します。







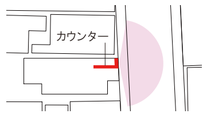


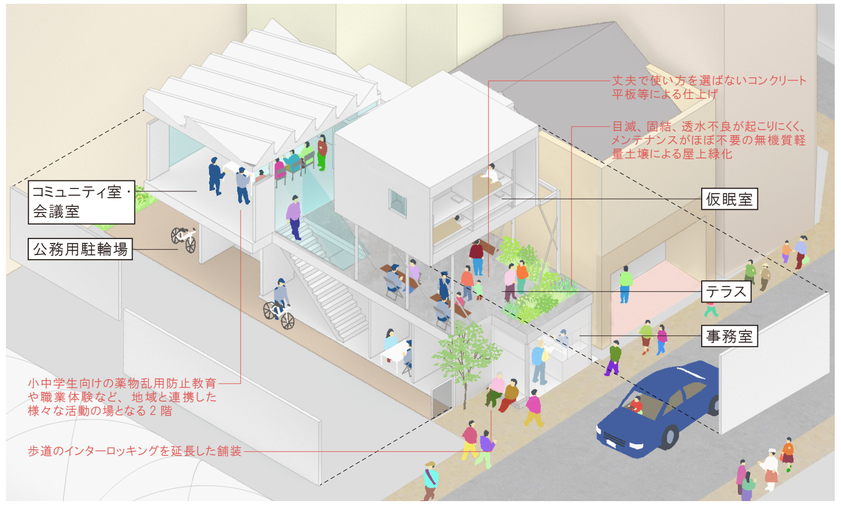
街を見守る平屋の窓口（テーマ1、2）

地域の人々にとって最も重要な交番の窓口部分は平屋とし、道に面して設けることで、周囲の街並みとの連続性を保ちつつ、圧迫感を与えない、親しみやすいたたずまいとします。

カウンターはＬ形とし、道に面して配置することで、勤務員が道路を 180 度視認できるようにします。窓口は道側にも設けることで、通りがかりの人や観光客が交番内部に入らなくても気軽に勤務員に声をかけられるようにします。

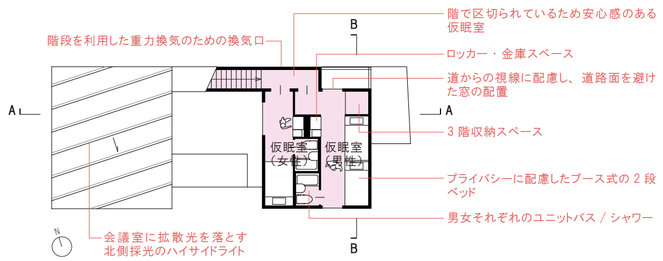
一般来所者用の駐輪場は建て込んだ商業地の中の小庭として中木を植栽します。へこんだ壁面には周辺案内図を設置し、ベンチを設けることで観光客やお年寄りなどが一息つける場所とします。



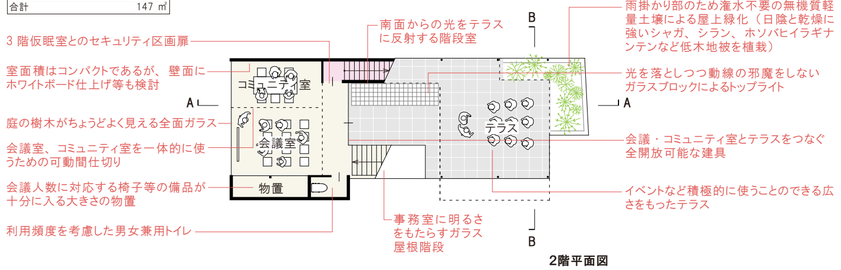


面積表

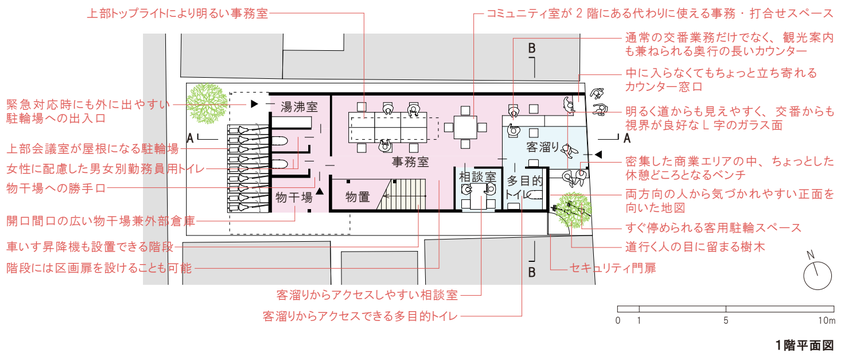
1階	事務室	36 ㎡
	客溜り	7.5 ㎡
	相談室	4.5 ㎡
	多目的トイレ	4 ㎡
	勤務員用トイレ（男）	2 ㎡
	勤務員用トイレ（女）	2 ㎡
	湯沸室	4.5 ㎡
	物置	4 ㎡
	物干場（倉庫兼用）	4.5 ㎡
	廊下・その他	4 ㎡
2階	会議室	13.5 ㎡
	コミュニティ室	9 ㎡
	物置	3.5 ㎡
	会議室用トイレ	2 ㎡
	階段・その他	12 ㎡
3階	仮眠室（男性）	16.5 ㎡
	仮眠室（女性）	10 ㎡
	階段・その他	7 ㎡
合計		147 ㎡



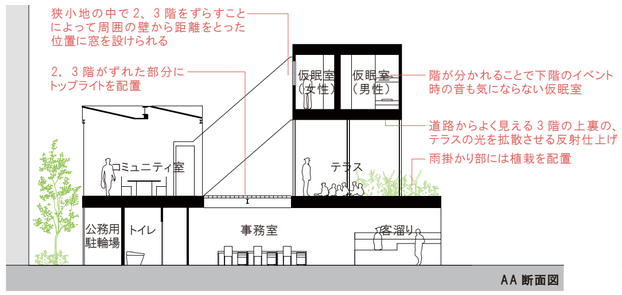
3階平面図



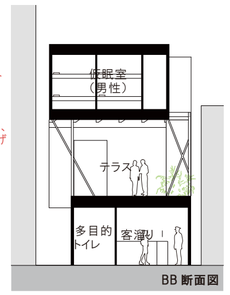
2階平面図



1階平面図



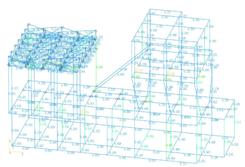
AA 断面図



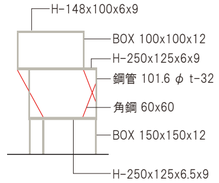
BB 断面図

小径材を効果的に用いた構造計画

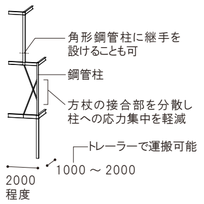
構造は主に角形鋼管の柱で構成した鉄骨ラーメン構造とし、これを小径材の方杖やトラス梁で補剛することで、ずれながら積層する構造を効率よく実現します。
2 階、3 階の屋根は乾式とし、軽量化を図ることで 2 階建てに近い鉄骨量で 3 層の構造を成立させます。躯体の軽量化により可能な限り直接基礎とし、基礎工事にかかるコストを抑えた計画とします。



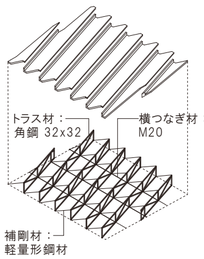
3 層部分について、上下階の柱位置をつなぐように方杖を配置することで柱の曲げ応力を軽減します。さらに、柱に対する方杖の接合部を分散させることで、柱への応力集中を軽減します。こうすることで、小径の柱と方杖による耐震性の高い構造が実現し、広々としたテラス空間を生み出すことが可能となります。



狭小敷地であることに配慮し、部材を細かく分割して運搬できる計画とします。方杖は柱梁に溶接されたユニットとして現場に搬入し組み立て、現場での施工手間を減らします。



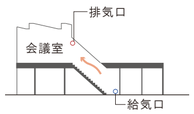
全面にハイサイドライトが架かる会議室は採光面をトラス状の小梁として利用し、省資材の屋根架構とします。トラス梁は細い角鋼で構成し、のこぎり状に配置された上弦材・下弦材に座屈補剛を設けることで、座屈耐力の高い構造とします。またトラス梁を大梁に対して斜めに架け渡すことで屋根面の水平剛性を確保します。



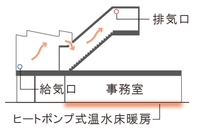
自然エネルギーを積極的に利用する設備計画

トップライトとハイサイドライトの配置により昼間は照明をほぼつけずに使える交番を実現し、昼光センサーを用いた自動調光を採用することで照明の消費電力を大幅に削減します。

階段の上下には自然換気口を配置し、重力換気を積極的に利用して中間期の空調費用を削減するとともに勤務員の執務環境に配慮します。



各小部屋には個別制御の空調室内機を設置し、ランニングコストを低減します。勤務員が長時間過ごす 1 階の床面にはヒートポンプ式温水床暖房を設置し、居住域を効率的に空調します。



概算工事費とコストコントロールについて

躯体の軽量化による鉄骨工事・基礎工事・土工事の縮減、自然エネルギーの利用による設備工事費の低減に加え、内外装仕上げについては交番にふさわしいシンプルさを基本としつつ、全体計画に呼応した適材適所の材料選定を行うことにより、想定よりも 1 層多い 3 層の計画を予算内で実現します。
また、積算協力事務所と連携して設計の各節目でコストチェックを行い、コストバランスの悪い項目を見直し、設計にフィードバックすることで、コスト管理を徹底します。

交番庁舎	建築工事費	63,500千円
	設備工事費	20,000千円
外構（その他付属建物を含む）		3,500千円
概算工事費（税抜き）		87,000千円